OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学文書館設置準備室だより 第2号
Author(s)	
Citation	大阪大学文書館設置準備室だより. 2008, 2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/3489
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ISSN 1882-3963

大阪大学
文書館設置準備室だより

第2号

2008.3.31

目次

大阪医学校・化学講義ノート …… 1

講義科目「大阪大学の歴史」を始めて
高杉英一 …… 2

情報公開と文書館
菅　真城 …… 5

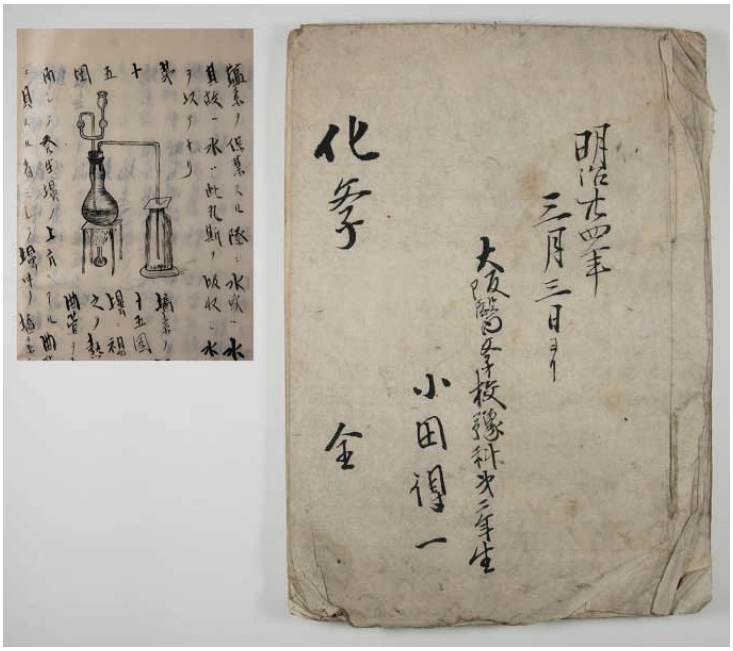
受贈刊行物 …… 7

文書館（仮称）設置検討ワーキング名簿 …… 13

業務日誌（抄） …… 14

大阪大学文書館設置準備室設置要項 …… 15

資料保存セミナーのご案内
大阪大学文書館設置準備室員名簿 16



大阪医学校・化学講義ノート

大阪大学医学部の前身である大阪医学校で助教諭を務めていた石川喜直氏が明治24（1891）年3月3日～6月4日に講義した内容（全38講）を、同校の当時予科2年生であった小田得一氏が作成した講義ノートです。本学教員から寄贈して頂きました。当準備室には大阪大学に関する講義ノートが全部で66冊ありますが、これはそれらの中で最も古いものです。

講義者の石川氏は、四高医学部講師を経て明治34（1901）年に金沢医学専門学校（現、金沢大学医学部）の解剖学教室第二講座の初代教授に就任した人物です。

このノートは縦帳（横13.7cm×縦19.4cm）で、全部で144ページあります。助教諭の口述内容に加えて実験器具などの図も多数描かれており、当時の講義や実験が偲ばれ大変興味深いです。（辻　義浩）

講義科目「大阪大学の歴史」を始めて

大阪大学理事・副学長　高杉　英一

１．はじめに

私は1968年に大阪大学理学部物理学科を卒業した後、米国での大学院生と研究員を経て、1980年の3月16日に母校の大阪大学に助手として赴任しました。私が4年生の時所属していた研究室の内山龍雄先生は阪大出身で、湯川秀樹先生のお弟子さんにあたる方です。

湯川秀樹博士は、1933年に大阪大学に講師として赴任され、1939年に京大教授として母校に帰られました。長年研究を行っていた核力の起源について、アイディアがひらめいたのは、1934年10月のことで、この構想が中間子論となって翌年に論文として出版されました。この論文は湯川の最初の論文でありながら、ノーベル賞受賞の対象となったという前代未聞の仕事です。湯川先生のこの研究が大阪大学中之島キャンパスで完成した背景には、創設当時の長岡半太郎総長と八木秀次物理学科主任教授の構想した、新進気鋭の若手を採用し、自由闊達に研究を行わせる環境を作ったことにあります。八木は、湯川に自由に発想し研究できる環境を作り、また叱責や励ましを与えるなどしたことは、湯川が大胆なアイディアを推し進めてゆく原動力となったことは間違いのないことでしょう。内山先生は1940年の卒業ですから、阪大での湯川先生の指導を直接受け、また大きな影響を受けたことは間違いありません。当時の研究室の様子に関しては、内山の追想に詳しく書かれています（「湯川博士と大阪」『適塾』No. 15，p19(1982)）。

湯川先生の大阪大学での業績を顕彰するために、大阪大学に湯川記念室が設けられました。私は、長く湯川記念室の運営委員や委員長を務めてきました関係で、大阪大学の歴史、特に創設後間もない大阪大学において、世界第一水準の研究がどのようにしてなされたのか大変興味を持ち、また創設期の状況を伝えることは大変重要であると考えていました。

２．大阪大学の歴史を記録する、展示する

私は、2004年の法人化と同時に発足した大学教育実践センターの専任教員になりました。この機会に、大阪大学の歴史を保存しなくてはいけない、特に、大阪大学の創設に関わった名誉教授の方等にインタビューを行い、その様子をビデオ映像として残し映像資料とすること、また当時の研究環境を語っていただきこれを現在の大阪大学の学生へメッセージとすることは、大変重要であると考えました。まず、金森元総長にご相談をし、大阪大学創設の頃をご存じの方が少なくなっている現状をふまえて、とりあえずインタビューを行い映像として残す事にし、湯川記念室、総合学術博物館、文書館設置準備室の協力のもとに、伏見康治先生、伊藤順吉先生、関集三先生、芝哲夫先生、金森順次郎先生、平尾泰男先生の6名の先生方のインタビューを行いました。これらの方のメッセージは総合学術博物館のご尽力で編集され、待兼山修学館で公開されています。

これからも、文書館設置準備室を中心に年間５名程度の方を対象としてインタビューを行っていきます。これらの映像資料はオリジナル資料として大阪大学の財産となると共に、部局等の必要に応じて編集を行えるものと考えています。

もう一つ考えたことは、大阪大学の、「過去」「現在」「未来」を見ることのできる場所を作ることです。新入生が大阪大学の時間的推移を見ることにより、大阪大学の精神を深く理解し、大阪大学に誇りを持ってもらうことを考えました。また、このような場を利用した授業を構成することを考えていました。私はイ号館がこのような場所になればと期待していました。2007年8月17日に待兼山修学館のオープニングがあり、懐徳堂、適塾関係、大阪大学の歴史、大阪大学での研究などの

展示や解説がありました。総合学術博物館や文書館設置準備室の力が結集したもので見事なものでした。また、この企画を可能にした宮原秀夫総長（当時）ならびに執行部の方々に感謝の念と敬意をもちました。授業にも使って頂きたいと思います。待兼山修学館は「過去」を見るものですが、イ号館には大阪大学の「現在」と「未来」を見ることができる場所として計画して頂きたいと願っています。

３．講義科目「大阪大学の歴史」を立ち上げる

学生に直接話かける事が極めて大切だと考えています。「見る」だけでは、深い理解はなかなか得られません。教員と学生が対話し、お互い理解を深めることが重要です。大阪大学に入学してきて良かった、また大阪大学を卒業したことを誇りに思う、そのような学生として社会に巣立っていただきたいのです。一昨年に大学教育実践センターに立教大学の寺崎昌男先生をお呼びして、ＦＤに関しての講演をして頂きました。話の中に、「大学の歴史」の授業を行うことの重要性を話されました。立教大学は、東大、早稲田大、慶応大などの受験を失敗した学生が多く入学する傾向にあったそうです。このため、立教大学の歴史の授業を行うことにより、受講した学生は、立教大学に入学して良かった、大学を誇りに思った、ということです。私は、これこそ大阪大学に今必要な教育だと考えました。

まず、新入生を対象とした入学記念講義で、総長に、大阪大学の「過去」「現在」「未来」を話していただくようお願いし、またこの講演会に引き続いて行います講義科目「知性への誘い」において、部局長の方に部局の歴史を入れていただくようお願いしました。このような取り組みは平成18年度から始まりました。平成19年度には、入学記念講義はなくなりましたので、講義「知性への誘い」の第1回目に総長にきていただき、全員に大阪大学の歴史について話していただいています。

このような企画とは独立に、平成18年度より「大阪大学の歴史」の講義科目を立ち上げることにしました。懐徳堂関係は柏木先生、適塾関係は木下先生、文書館設置準備室の阿部先生、総合学術博物館の江口先生、教育情報室の久保先生とご相談しました。その結果、木下先生からは適塾関係として的場先生を推薦いただき、特別科目として立ち上げました。平成19年度からは、先端教養科目として開講しています。シラバスには、「授業の目的、ねらい」について、次のように書きました。「大阪大学の源流、創設、発展の各段階にかかわってきた人達のことを、そしてこれらの人達がどのようにして大阪大学を、そして新しい学問を切り開いてきたかを学ぼう。これらの方々から受け継がれてきている大阪大学の気風を知り、大阪大学の建学の精神を学ぼう。受講された皆さんは、大阪大学の先人の切り開いてきた道に誇りをもち、また伝統を感じることでしょう。この誇りと伝統は、皆さんが卒業後、新しい道を切り開くとき、困難に遭遇したときに、大いなる力を発揮することでしょう。」

平成18年度は1セメスターの金曜1限に開講した関係で、学生はあまり集まらず残念でしたが、今年度は1セメスターの月曜5限に設定した関係で、82名の学生が受講しました。

４．学生の反応

授業毎にレポート提出を行っていますので、先生方それぞれの感想をお持ちです。ここでは私の講義に対して提出されたレポートをもとに話します。

まず、私は２回行いましたが、１回目はイ号館で開催していました「湯川・朝永展」に行き、見学を行うと共に、私が大阪大学の創設、理学部の新設、画期的な講座編成、若手の採用、八木の方針、特に新発見を重んじる研究スタイル、なぜ世界最先端の研究ができたのかなどを説明しました。２回目は、大阪大学の歴史を概観し、その中で大阪大学の教育目標「教養」「デザイン力」「国際性」、大阪大学のモットー「地域に生き世界に伸びる」、研究目標「競争」と「協奏」、大

阪大学憲章がどのような歴史的背景から生まれたかを説明しました。これらのことは、歴史の流れから生まれてきているのですから、歴史を語らなければ学生さんにはなかなか理解されないことです。

学生の反応は、大変勇気づけられるものでした。学生のレポートの一部を紹介します。

・大阪大学の歴史でやはりほぼ毎回大阪商人の考え方には感心します。「お金は必ずなくなるが、身につけた学問はなくならない」「学問は万人に平等である」・・・等はさすがだなと思いました。
・一番印象に残っているのは、長岡半太郎が真っ赤なガウンを着て、開学式に登場した話だ。「形式的なことを持ち込まぬよう・・・」と言った長岡の心は現在の教育目標や「研究の自由な発想に基づいた基盤研究の維持」という研究推進のキーワードに今でも生きている。
・阪大にも憲章やモットーがあったことを初めて聞いた。教育目標として３つあげられていたが、その中で「教養」や「国際性」は大学としては一般的かもしれないが、「デザイン力」というものについては知らなかった。
・大阪大学の歴史は、私が思っていた以上に幅広く、奥の深いものだと思いました。・・・あらゆる分野で多くの功績を残したすばらしい学校だと改めて感じました。
・湯川秀樹が、自分の研究を数年間受け入れられなかったにもかかわらず、・・・最後まであきらめなかったということには、特に感銘を受けました。やはり学問、研究をするには努力や忍耐や、それに対する誠意などが必要不可欠と感じました。
・大阪大学の一員になれてすごく光栄に思っています。・・・一員として自分の目指すべき道が少し見えてきたような気がします。
・大阪大学の教育理念を知ることで自分がどのような大学生活を送り、先生方の授業を教授してゆくべきかを知り、よりいっそう大阪大学に親しみを持ちました。
・最初五月病にかかっていました自分でしたが、この授業を聞いて再びやる気が出てきました。本当にこの大学にきて良かったと思います。
・大阪大学が掲げている「デザイン力」という言葉の意味を、私は今まで気にしたことがありませんでしたが。しかし、今日の話を聞いて、それがいかに重要であるかを思い知らされました。

まだまだ紹介したいのですが、この辺で止めます。私は、学生諸君が真剣にレポートに意見を書いてくれているのに感動しました。

５．おわりに

大阪大学の歴史を知ることは、学生だけでなく、教員や職員にとっても重要です。大阪大学の研究や教育の目標には、現在の社会状況の影響もあるでしょうが、それだけで作られたものではありません。大阪大学の歴史、懐徳堂や適塾で代表される思いが大阪市民に引き継がれ、大阪医科大学、大阪工業大学、さらに大阪帝国大学の創設に発展してきたのです。その後もこの流れに沿って今日の大阪大学に発展してきた、この流れが集大成されてできたものです。この意味からも、学生、教職員が大阪大学の歴史を学び、そこから大阪大学の教育や研究も目標、大阪大学のモットー、大学憲章を深く理解していただきたいと思います。

大学教育実践センターで行われている、全学共通教育科目を初めて受け持つ新任教員研修において、平成18年、19年と、鈴木副学長（当時）にお願いして大阪大学の歴史を話していただきました。また、新任職員研修においても、高杉が大阪大学の歴史を話しました。

このような活動を通して、学生、教員、そして職員が一体となって大阪大学を愛し育てる気持ちを持っていただくことを大いに期待しています。

情報公開と文書館

大阪大学文書館設置準備室講師　菅　真城

１．情報公開制度の概要

「情報公開」という言葉は、日本でもすっかり定着しました。新聞、テレビなどでこの言葉を目にしない日の方が少ないかもしれません。Googleで「情報公開」を検索してみると、375,000もの日本語ページがヒットします。日本において情報公開制度は、国に先駆けて地方自治体で条例化されてきました。国においては、2001年に「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」（以下、「行政情報公開法」と略記）、いわゆる情報公開法が施行されました。

情報公開法は、「国民主権の理念にのっとり」、政府の説明責任が全うされるようにするとの考え方を基本にして、国籍や年齢を問わず何人にも行政文書の開示を請求する権利を定めたものです。また、開示請求のみでなく、行政機関には任意的な情報提供を行うことも求めています。独立行政法人に対しては、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」（以下、「独法情報公開法」と略記）が定められています。

国立大学については、当初は行政情報公開法が適用されていましたが、法人化した2004年4月1日からは、独法情報公開法が適用されるようになりました。独法情報公開法の趣旨も、行政情報公開法と同様のものです。

２．情報公開と文書管理は車の両輪

このように情報公開法は、全ての人に対して行政（法人）文書の開示請求権を認めています。国立大学法人大阪大学の法人文書も、いかなる人も開示請求することができます。開示請求の対象となる法人文書は、本学の役員又は職員が職務上作成又は取得した文書、図画、電磁的記録等で職員が組織的に用いるものとして、本学が保有しているものです。

では、開示請求を行おうとする人は、どのようにして本学の法人文書の存在を知ることができるのでしょうか。法人文書を特定するために、「法人文書ファイル管理簿」が作成され、一般の閲覧に供されています。また、インターネット上の「大阪大学法人文書ファイル管理システム」により、保有法人文書を検索することができます。このように、情報公開法は、法人（行政）文書についての厳格な管理を求めています。どこにどのような法人文書があるのかをきちんと把握していないと、開示請求に対応することはできません。また、きちんとした文書管理は、開示請求への対応のみでなく、日常の業務の効率化にも寄与します。

しかし、内閣官房長官が主宰した「公文書等の適切な管理、保存及び利用に関する懇談会」は、その報告書で現状の国の文書管理に問題点があることを指摘しています。具体的には、ファイル名に抽象的なタイトルが多いこと、複数の簿冊が1ファイルである場合や1つの簿冊の中に複数のファイルが存在する場合等種々の態様が混在していること、などが問題であるとされています（内閣府大臣官房監修・高山正也編『公文書ルネッサンスー新たな公文書館像を求めてー』国立印刷局、2005年）。文書管理を改善しなければ、説明責任を全うすることは困難です。情報公開と文書管理は車の両輪なのです。

３．開示請求と文書館

さきほど開示請求の対象となる法人文書について述べましたが、書籍等の市販物や、総務大臣が指定した機関で一般の閲覧に供するため特別の管理がされている歴史的資料等は開示請求の対象か

ら除かれます。法人文書には保存年限が定められており（保存年限内の文書を「現用文書」といいます）、それが満了すると（「非現用文書」といいます）歴史的資料の保存機関に移管するか廃棄されるかの処置がなされます（保存期間が延長されることもあります）。ここに歴史的資料の保存機関＝文書館の役割が生じます。文書館は、歴史的資料か否かをを評価選別します。その結果、大多数の文書は廃棄されます。そして残った歴史的文書について、整理・保存し、一般に公開します。

このように現用段階の法人文書と歴史的資料とは物理的に同一の文書です。情報公開の基本概念は「説明責任」ですが、現用の法人文書と歴史的資料をあわせてはじめて、完全な形で情報を公開しているということができます。説明責任は現在においてのみでなく、過去の事柄についても将来にわたって果たす必要があります。そのためには歴史的資料を一般公開する文書館が必要不可欠です。現用文書の開示請求に対応することに加えて、文書館を設置することによってはじめて、説明責任を全うしているということができるでしょう。文書館設置準備室では、将来文書館を設置して歴史的資料を一般公開することを目指して、その準備のための活動をしています。

４．個人情報等の保護

開示請求された法人文書は、全てが公開されるわけではありません。(1)特定の個人を識別できる情報、(2)法人の正当な利益を害する情報、(3)国の安全、諸外国との信頼関係等を害する情報、(4)公共の安全、秩序維持に支障を及ぼす情報、(5)審議・検討等に関する情報で、意志決定の中立性等を不当に害する、不当に国民の間に混乱を生じさせるおそれがある情報、ｓ(6)行政機関の事務・事業の適正な遂行に支障を及ぼす情報、については法律の定により公開されません。

文書館に移管された歴史的資料についても、全てが一般に公開されるわけではありません。文書館においても個人情報等は厳格に保護されます。文書館設置準備室では、国立公文書館に準ずる形で利用制限を行うことを考えています。その概要は以下のとおりです。作成後30年までの文書については、独法情報公開法および「国立大学法人大阪大学情報公開に関する開示・不開示の審査基準」に準拠して公開の制限を行います。ただし、(4)公共の安全、秩序維持に支障を及ぼす情報、(5)審議・検討等に関する情報で、意志決定の中立性等を不当に害する、不当に国民の間に混乱を生じさせるおそれがある情報、(6)行政機関の事務・事業の適正な遂行に支障を及ぼす情報、については、非現用となり文書館に移管された段階で非公開とすべき事由は消滅していますので、文書館では公開します。また、作成後30年を経過した文書についても、個人の秘密情報等については、その重要性に応じて(1)30年以上50年未満、(2)50年以上80年未満、(3)80年以上の適切な期間、という3段階の基準で非公開期間を設定し、その保護を図ります。

一方、現用段階で不開示とされた法人文書は、情報公開制度の目的とする「説明責任」を果たすことができなかった文書ということができます。これらの法人文書を文書館に移管し、一定年限の経過後に公開することとなれば、開示できないが故に全うすることのできなかった説明責任を、この段階において全うさせることが可能となります（早川和宏「情報公開と公文書館－歴史家の施設から住民の施設へ－」『アーキビスト』59、2003年）。ここに文書館の存在意義を見て取ることができます。

受贈刊行物 （2007年7月～2008年2月）

小樽商科大学百年史編纂室

小樽商科大学史紀要　創刊号、緑丘アーカイブズ　第5～6号

追手門学院大学

追手門経営論集　第13巻第9号、 追手門経済論集　第42巻第1～2号、国際教養学部紀要　創刊号

金沢大学資料館

平成19年度金沢大学資料館・附属図書館シンポジウム「金沢大学3学域化と総合大学の教員養成の新機軸」(ポスター)

関西大学年史編纂室

関西大学百二十年史

関東学院学院史資料室

学院史資料室ニューズ・レター　№11

九州大学大学文書館

九州大学大学文書館ニュース　第30号

京都産業大学大学史編纂室

Sagittarius（京都産業大学通信）Vol.36～38

京都大学大学文書館

京都大学大学文書館企画展　京大のアーカイヴズ「文書がひらく世界」(チラシ)、京都大学百年史　部局史編一～三・資料編一～三・総説編・写真集、大学文書館だより第13号、京都大学大学文書館企画展「第三高等学校の歴史　－昭和期を中心に－」(チラシ)

近畿大学世耕弘一先生建学史料室

長編大河漫画「山は動かず－世耕弘一－」

皇學館館史編纂室

第3回館史編纂室資料展　皇學館大學125年の歩み

神戸国際大学

神戸国際大学紀要　第72～73号、経済経営論集　第27巻第1～2号

大東文化歴史資料館

大東文化歴史資料館だより　第3号

中央大学大学史編纂課

中央大学百年史編集ニュース　第37号

東海大学学園史資料センター

東海大学学園史ニュース　№1、湘南キャンパス　創生

東京大学史史料室

東京大学史史料室ニュース　第39号

同志社大学同志社社史資料センター

「大正デモクラシー期の同志社　Neesima　Room」第32回企画展(冊子・ポスター)、鼓動　Doshisha　Album　130th Anniversary

東北大学史料館

東北大学史料館だより　第7号

東北大学附属図書館

東北大学創立100周年記念展示　東北大学の至宝「資料が語る1世紀」(図録・チラシ)

東洋大学　井上円了記念学術センター

甫水井上円了漢詩集、井上円了センター年報　Vol.16

東洋英和女学院

楓園　第49～51号、史料室だより　№69

長崎大学総務部総務課

広報誌CHOHO　Vol.20～22

名古屋大学大学文書資料室

写真集　名古屋大学の歴史　1971～1991、名古屋大学五十年史　部局史一～二・通史一～二

南山大学大学史料室

南山学園創立75周年記念誌　HOMINIS DIGNITATI

日本大学大学史編纂室

鬱誌　第3号、日本大学史紀要　第10号

日本女子大学成瀬記念館

成瀬記念館　2007　№22

広島大学高等教育研究開発センター

高等教育研究叢書　№93

広島大学文書館

広島大学文書館紀要　第9号、広島大学文書館企画展示「キミハ　カジヤマトシユキヲ　シッテイルカ梶山季之資料展」(チラシ・ポスター)、広島大学五十年史　通史編

法政大学図書館事務部

法政大学大学史編纂室ニュース　№5

武蔵学園記念室

新選物理学

立教学院史資料センター

立教学院史研究　第5号

立正大学総務課

立正大学学園新聞　第98号

立命館百年史編纂室

立命館百年史　資料編二

国文学研究資料館

国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇　第4号、アーカイブズ・ニューズレター　№7、資料目録　第85集

全国大学史資料協議会東日本部会

大学アーカイヴズ　№37

全国大学史資料協議会西日本部会

研究叢書第8号　大学アーカイブズにおける個人文書－個人文書の整理・公開の現状と課題－於:広島大学－

国立公文書館

アーカイブズ　第29・31号、国立公文書館年報　第36号、国立公文書館における資料修復

福島県歴史資料館

福島県歴史資料館収蔵資料目録　第38集、研究紀要第29号、福島県史料情報　第18・19号

埼玉県立文書館

「埼玉県史料叢書」第7巻(下)入間・熊谷県史料　四、文書館紀要　第20号、埼玉県文書館収蔵文書目録第46集　湯本家文書目録

神奈川県立公文書館

平成18年度神奈川県立公文書館年報

愛知県公文書館

愛知県公文書館だより　第12号

福井県文書館

福井県文書館年報　第4号、文書館だより　第10号

京都府立総合資料館

総合資料館だより　№152～154

和歌山県立文書館

収蔵史料目録七　紀州藩士諸家文書目録、和歌山県立文書館だより　第21号

岡山県立記録資料館

岡山県立記録資料館年報　平成18年度、岡山県立記録資料館だより　第3号、岡山県立記録資料館平成19年度企画展「近代のみち～岡山県の道路交通網整備～」(チラシ)、岡山県立記録資料館平成20年度企画展「近代のみち～岡山県の道路交通網整備～」(ポスター)

松本市文書館

松本市史研究　第17号

名古屋市市政資料館

新修名古屋市史　資料編近世1

尼崎市立地域研究史料館

地域史研究　104号

大阪大学総務部企画推進課

OSAKA UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES 2007.10.1 INTEGRATION 統合後の新しい教育研究組織・パンフレット、大阪大学・大阪外国語大学統合記念式典祝賀会、「南から新しい光が」大阪大学創立50周年記念南太平洋学術調査写真集、OSAKA UNIVERSITY 60、ISIR 1989年 大阪大学産業科学研究所創立50周年記念　同窓名簿、大阪大学荒田記念館記念誌　1988・1991、大阪大学第三内科100周年記念誌、大阪大学経済学部50年史、大阪大学空手道部創立五十周年記念誌、大阪大学空手道部創立五十周年記念誌、球心　大阪大学硬式野球部八十年史、球心大阪大学硬式野球部百年史、大阪大学レーザー核融合研究センター20周年記念写真集　光跡、大阪大学工学部通信工学科五十周年記念誌、大阪大学レーザー核融合研究センター20年史「飛翔」、大阪大学歯学部創立40周年記念誌、大阪大学工学部創始百年史、遅明録－天野利武先生その人と業績－、追想　坂田勝郎、藤井治彦先生退官記念論文集、山村雄一先生とその人脈、菊池正士　業績と追想、真島利行先生　遺稿と追憶、谷口直之教授退任記念誌、清水謙一先生退官記念誌、財団法人谷口工業奨励会四十五周年記念財団要覧、熊谷三郎先生追想録、「大阪帝国大學創立史」復刻の忘れな草に、追想　曲直部寿夫、寺本先生の思い出　寺本先生追悼文集、大山良徳先生定年退官記念誌、癌研究の新しい流れを求めて　豊島久真男教授退官記念、一学究者のわだち　荒田吉明教授、大阪大学史紀要　第1～4号、大学審議会ニュースNo.14、第50回文部省所管並びに国立大学附置研究所長会議議事録、調査研究報告書　1983　No.1「関西高等学術研究所」の基本構想、国立民族学博物館　展示案内、フィロカリア　第22号、大阪大学記念資料目録集、阪大化学熱学レポート　No.12、大阪大学工学部1991-1992、大阪大学光科学研究ネットワーク　Vol.1・3、大学基準協会創立50周年記念企画　大学の質を問う・資料にみる大学基準協会五十年の歩み、大学の国際文化学、瀧川幸辰先生を偲ぶ、国立大学ルネサンス生まれ変わる「知」の拠点　1・2、中央教育審議会答申総覧、Introduction to Laser Fusion、NUCLEAR PHYSICS AT RCNP、POUR UNE APPROCHE COMMUNICATIVE DANS L´ENSEIGNEMENT DU FRANCAIS AUJAPON 、かしこい材料とシステムー産業科学の新しい芽ー、レーザーと未来社会、ultramicroscopy、大阪工大摂南大学70年史、国立大学協会三十年史、大阪市政百年の歩み、化学とともに百二十年　島津製作所の歩み、創立六十周年記念誌、大阪工業会八十年史、大蔵省財務局四十年史、奈良教育大学写真年表、創立100周年記念　1988　記念はがき　奈良教育大学、学士会百年、創立25周年記念特集号、平成6年度　大学一覧、東京水産大学百年史資料編・通史編、国立学校特別会計三十年のあゆみ、大阪経済法科大学創立20周年記念誌　新たな歴史の創造、学校法人大阪電気通信大学　学園50年のあゆみ、大阪大学新聞、まちかね祭　47th「阪大日和」、1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式・記念講演会報告書、大阪大学大学教育実践センターニューズレター　No.13～14、Handai Hospital　第24号、レーザー研ニュース　No.257～259、産研ニュースレター　第30号、OSIPP NEWS LETTER　2006年　No.38・40、大阪大学低温センターだより　No.135～137、核融合科学研究所NEWS　No.158・166～169、大阪大学大学院文学研究科・文学部国際交流センター室報　第53号、阪大NOW No.83、阪大化学熱学レポート　No.26～27、微生物病研究所　2005、大阪大学学生の意識と生活　第21回学生生活調査報告書、ISER　大阪大学社会経済研究所、大阪大学蛋白質研究所要覧　2006、大阪大学蛋白質研究所レポート　平成17年度、大阪大学大学院基礎工学研究科基礎工学部要覧　2006－2007、ANNUAL REPORT OF OSAKA UNIVERSITY 2005－2006、大阪大学大学院医学系研究科・医学部要覧2006、大阪大学接合科学研究所外部評価報告書、技術部報告書Vol.15、第13回基礎工学部技術職員研修講演・技術発表報告集　平成18年、大阪大学環境安全研究管理センター誌「保全科学」　第13号、平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ選択教育プログラムの概要、静岡大学新潟中越地震災害支援ボランティア報告書、国立大学地域交流ネットワークシンポジウム　国立大学がつながることによって何ができるか報告書、平成14年度佐賀大学地域貢献推進室報告書、定期報告11国会情報　第165回臨時国会、平成18年度秋季特別展村相撲の風景、博物館だより　No.28、平成18年度福島大学　市民のための講座・セミナー案内、2005　子どもゆめ募金ガイド、Volo　第39巻1号、アジア女性基金ニュース　No.26、日本に根付くグローバル企業研究会ニュースレター　No.9、王子製紙グループ企業行動報告書2005、独立行政法人メディア教育開発センターMINE 2006　年度要覧、OSAKA PREFECTURAL GYMNASIUM　No.73・79、plug　006、阪大ニューズレター　No.38

大阪大学研究推進部研究推進課

博士学位論文　第88～89集

大阪大学国際部国際交流課

OSAKA UNIVERSITY PROSPECTUS 2005～2007、ANNUAL REPORT OF OSAKA UNIVERSITY Academic Achievement 1999～2006

大阪大学附属図書館

要覧　1985・1987・1990・1993・1995～1998・2000・2003～2008、大阪大学附属図書館年次報告　平成2～17年、大阪大学附属図書館本館新営計画－教育・研究活動の支援機能充実を目指して－、大阪大学附属図書館本館新館パンフレット、大阪大学図書館報　Vol.1～41、大阪大学図書館報総目次　Vol.1　～23、Current News　No.1～48、本館利用のしおり　昭和44・46～58年、図書館利用案内　1986～1993、図書館本館利用案内　1994～1996、大阪大学附属図書館本館利用案内　1997 ～ 2005・(学内用)2006 ～ 2007・(学外用)2006・(英語版)1994～1999・2003～2008、大阪大学附属図書館吹田分館利用案内(学内用)(学外用)2007、大阪大学附属図書館吹田分館利用案内(英語版)、大阪大学附属図書館生命科学分館利用案内　1998・2001～2007、大阪大学附属図書館生命科学分館利用

案内(英語版)1998・2001～2007、大阪大学附属図書館生命科学分館利用案内(学内用)2007、大阪大学豊中図書館利用のしかた　41年度、市邨学園百年史、広島大学の五十年、大学院つれづれ草、広島経済大学創立四十周年記念論文集、東北大学百年史　一通史編、第五高等学校　熊本大学五高記念館図録、慈忠忍・市邨学園100年の歩み、「礎　看護短大からの始まり」和歌山県立医科大学看護短期大学部閉学記念誌、東京大学陸上運動部120年史

大阪大学大学院文学研究科・文学部

大阪大学文学部・大学院文学研究科自己評価書「現状と課題」1995・1998、大学院文学研究科年報2002・2004・2005・2006「研究・教育と外部評価」、大阪大学大学院文学研究科・文学部　国際交流センターBulletin No.1～15・17・19～31・33・36・39～47・49～54

大阪大学大学院人間科学研究科・人間科学部

1998年度～2007年度　受講案内公開講義、人間科学部国際交流室ニュースレター　OIE Bulletin　No.2～6、大阪大学人間科学部1997・1998自己評価書－人間理解を目指して－、大阪大学大学院人間科学研究科・人間科学部2004・2006年度部局自己評価報告書、大阪大学大学院人間科学研究科・大阪大学人間科学部2005年度部局自己評価報告書および外部評価報告書、大学院人間科学研究科・人間科学部学生便覧　平成12年度～19年度、大阪大学人間科学部授業計画書(シラバス)　平成12年度～18年度、大阪大学大学院人間科学研究科授業計画書(シラバス)　平成12年度～18年度、大阪大学人間科学部2006・2007、大阪大学大学院人間科学研究科2006・2007、人間科学への招待

大阪大学大学院法学研究科・法学部

大阪大学大学院高等司法研究科

阪大法学部NEWS LETTER　第1～8号、法学研究科通信　No.1～4、平成18～19年度　学生ハンドブック大阪大学法学部、平成18～19年度　学生ハンドブック大阪大学大学院法学研究科、平成19年度法学部授業科目時間割、平成19年度授業概要シラバス　大阪大学法学部、平成19年度法学研究科授業科目時間割、平成19年度授業概要シラバス　大阪大学大学院法学研究科、平成19年度　法学研究科授業科目時間割、平成17～18年度　授業概要シラバス　大阪大学大学院高等司法研究科、大阪大学法学部の過去、現在そして未来－自己評価報告書(1)－、21世紀への飛躍をめざす第1回外部評価報告書、第2～3回　自己評価報告書、平成14年度外部評価報告書、大阪大学法学部50周年記念アルバム、大阪大学法学部案内　2005～2006・2008、大阪大学大学院法学研究科案内　2007～2008、大阪大学法学部国際公共政策学科新学科案内　2008年4月、大阪大学大学院法学研究科・法学部　案内(英語版)、大阪大学大学院高等司法研究科案内　2004・2006～2007、大阪大学法学部産学連携シンポジウム－企業再編に伴う法的諸問題－(チラシ)、大阪大学大学院法学研究科・法学部産学連携プロジェクト公開講義受講案内1999年9月開講～2003年9月開講、大阪大学大学院法学研究科産学連携シンポジウム　法科大学院の社会的役割と法曹養成(チラシ)、大阪大学知的財産権法セミナー(チラシ)、平成16年度大阪大学大学院高等司法研究科・法学研究科サマーセミナー年金制度の現状と課題(チラシ)、大阪大学大学院法学研究科・高等司法研究科産学連携プロジェクト平成16～18年度公開講義(チラシ)、公開講義「金融資本市場と金融商品取引法について」(チラシ)、公開講義「電気通信市場における競争政策と産業の国際競争力」(チラシ)、公開講義「国際エネルギーの情勢と日本の戦略」(チラシ)、大阪大学法政実務連携センター・高等司法研究科産学連携プロジェクト公開講義「金融資本市場のあり方」(チラシ)、大阪大学法政実務連携センター・高等司法研究科産学連携プロジェクト公開講義「市場経済における行政の期待される役割とその実態」(チラシ)、公開講義「法政審議会保険法部会における保険法改正の審議情況について」(チラシ)、大阪大学大学院高等司法研究科先端的法曹養成センターシンポジウム「科学技術倫理と法曹教育－新しいあり方の模索－」(チラシ)、大阪大学大学院高等司法研究科先端的法曹養成センター設立1周年記念シンポジウム「紛争予防マネジメント」(チラシ)

大阪大学大学院経済学研究科・経済学部

平成20年度大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程学生募集要項、平成20年度大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程学生募集要項、平成20年度大阪大学経済学部第3年次編入学学生募集要項、2008大阪大学大学院経済学研究科(パンフレット)、2008大阪大学経済学部(パンフレット)、平成19年度専門セミナー・研究セミナー履修の手引き、平成19年度学生便覧、平成19年度授業概要　大阪大学大学院経済学研究科(シラバス)、平成19年度授業概要　経済学部(シラバス)

大阪大学大学院医学系研究科・医学部

平成9～19年度　授業概要(シラバス)大阪大学医学部保健学科、平成11～12・14～15・18～19年度　履修要覧　大阪大学医学部保健学科、平成15～19年度　時間割表　大阪大学医学部保健学科、平成12～19年度保健学専攻履修要覧、平成10～11年度　保健学専攻(修士課程)履修要覧、外部評価報告書(第2巻)大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、自己点検・評価報告書-現況と課題－(第1～2巻)大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、1995～1999　大阪大学医学部保健学科(パンフレット)、2002・2006～2008　大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻(パンフレット)、平成15～18年度　大阪大学医学部医学科FD推進イベント(医学教育セミナー)報告書、平成19年度大阪大学医学部医学科授業概要(シラバス)、大阪大学医学部(パンフレット)、大阪大学医療技術短期大学部創立25周年記念誌

大阪大学医学部附属病院

平成14～17年度　アニュアルレポート、大阪大学医学部附属病院要覧　平成6～8・10・12～19年、Handai Hospital　阪大病院ニュース　創刊号～第28号、大阪大学医学部第一内科鎌田武信教授会退官記念誌、鎌

田先生の歩み、大河内寿一教授退官記念集、特殊救急部20年の歩み、大阪大学医学部特殊救急部30年のあゆみ　杉本侃教授退官記念、友諞　第8号、大阪大学小児科100年の歩み　1898－1998、大阪大学小児外科創立十周年記念業績集、大阪大学小児外科創立10周年記念文集－芽生えから今日までー、地域に生き世界に伸びる　大阪大学医学部・附属病院移転の経緯、大阪大学医学伝習百年史年表、阪神・淡路大地震救援活動報告書、大阪大学看護教育七十年史、大阪大学医学部附属助産婦学校閉校記念誌、介護のあゆみ、大阪大学看護教育百年史、大阪大学助産婦教育百年史

大阪大学大学院歯学研究科・歯学部

平成18～19年度　学生募集要項大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、概要　2005～2006（大学院歯学研究科、歯学部、歯学部附属病院、歯学部附属歯科技工士）

大阪大学大学院薬学研究科・薬学部

大阪大学大学院薬学研究科・薬学部概要　2003～2004、ライフサイエンスの最前線への誘い　大阪大学薬学部・薬学研究科案内　2003～2006・2007～2008（CD）、Prospectus　2003（英語版）、1999大阪大学薬学部創立50周年記念「写真で見る大阪大学薬学部の半世紀」、大阪大学薬学部・薬学研究科の現状と展望、平成17～18年度　大阪大学大学院薬学研究科公開講座「くすりと医療」、平成19年度大阪大学大学院薬学研究科授業概要、平成19年度大阪大学薬学部（シラバス）、平成19年度大阪大学薬学部・大阪大学大学院薬学研究科学生便覧

大阪大学大学院工学研究科・工学部

大阪大学工業会　№479～489・491～499、平成15年度授業概要（シラバス）　応用自然科学科、平成15年度授業概要（シラバス）　応用理工学科、平成15年度授業概要（シラバス）　電子情報エネルギー工学科、平成15年度授業概要（シラバス）　地球総合工学科、平成19年度工学部教育科目履修要覧、レーザー研ニュース№127・129～142・145・165・168・170～172・186～187

大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター

大学改革とナノテクノロジーの未来－阪大FRCの挑戦－、社会と大学は連携から「融合」へ、平成16～18年度阪大FRC「人間力アッププロジェクト」成果報告書、2005年度若手教職員育成プログラム経過報告及び成果発表、第2・4～5回　阪大フロンティア・シンポジウム報告書、FRCデザイン理工学プロジェクトシンポジウム世界が求めるデザイン力とは、2005年度FRCプロジェクト　理学・工学領域の女性研究者増加可能性をめぐって－課題の検討と大阪大学大学院工学研究科への提案－、FRCファイナルレポート（日本語版）文部科学省科学技術振興調整費戦略的研究拠点育成プログラム大阪大学フロンティア研究拠点構想、FRCファイナルレポート（英語版）Activities and Achievements　FY2001-FY2005、新FRC大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター（リーフレット）、FRC阪大フロンティア研究機構　夢が拡がる進化する、On Course for a Brighter Future（英語版）（パンフレット）、FRC阪大FRCが、産業界を動かす力になる（パンフレット）、阪大フロンティア研究機構プロジェクト　2002～2004、阪大フロンティア研究機構プロジェクト2003サマリー（日本語版）、阪大フロンティア研究機構プロジェクト　2004サマリー（英語版）、FRC SCIENCE SHOP 2004～2005、阪大FRC中間成果報告書、FRONTIER TIMES　創刊号～№8、平成16～18年度若手教育職員プログラム人間力アッププロジェクト研究成果報告書、平成17年度人間力アッププロジェクト「世界に通用するProfessional Engineer　を育てるための安全教育」報告書

大阪大学大学院基礎工学研究科・基礎工学部

第20～29回　公開講座テキスト、平成13～14・16～18年度　理科と情報数理の教育セミナー、大阪大学大学院基礎工学研究科・工学部要覧　2000～2007、平成14年度自己計画・評価書（試行版）、平成15～17年度自己計画・評価書、平成13・15年度　学外者による評価と提言、平成17年度基礎工学研究科物質創成専攻　学外者による評価と提言、平成18年度基礎工学研究科機能創成専攻　学外者による評価と提言、日経BPムック「変革する大学」シリーズ　大阪大学基礎工学部2007-2008、平成15～19年度　大阪大学基礎工学部学生便覧、平成16～17年度　大阪大学基礎工学部学生便覧（3年次用）、平成14～18年度　授業概要（シラバス）大阪大学基礎工学部、平成18～19年度授業時間割（1年次生）、平成18～19年度　授業時間割1学期（2・3・4年次生）、平成18～19年度　授業時間割2学期（2・3・4年次生）、21世紀の科学と技術のパイオニア　2002～2008

大阪大学大学院言語文化研究科

大阪大学言語文化部要覧 1999・2002、大阪大学大学院言語文化研究科要覧　1999・2002・2005、大阪大学大学院言語文化研究科棟落成記念　大阪大学大学院言語文化研究科要覧、平成19年度　学生便覧2007～2008 大阪大学大学院言語文化研究科、平成15～18年度　大阪大学言語文化部・大学院言語文化研究科公開講座、言語文化掲示板　第1～4号、平成20年度大阪大学大学院言語文化研究科博士前期課程言語文化専攻学生募集要項、平成20年度大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程言語文化専攻学生募集要項、大阪大言語文化部「外部評価委員会報告書」1999年・2003年、大阪大学言語文化部大学院言語文化研究科「自己評価報告書」 1998～2003、大阪大学大学院言語文化研究科「現状と課題」1998年、大阪大学大学院言語文化研究科「外部評価委員会報告書」1999年、大阪大学言語文化部「現状と課題」1998年

大阪大学大学院国際公共政策研究科

OSIPP NEWS LETTER 2007年 №42～44号、COURSE HANDBOOK　1999～2000・2002～2007（シラバス）、OSIPP　2005～2008（パンフレット）、Osaka School of

International Public Policy OSIPP(英語版)、1999 PAST AND PRESENT 新棟完成、創立五周年を記念して、大阪大学大学院国際公共政策研究科5年間活動報告書1994-1998、大阪大学大学院国際公共政策研究科－10年のあゆみ－1994-2004、External Review 外部評価報告書 2000・2000(英語版)、上方ITシンポジウム報告書、平成17～19年度 大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程学生募集要項(10月入学)、平成18～20年度 大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程学生募集要項、平成18～20年度大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程学生募集要項、平成15～18年度 授業時間割表、OSIPP NEWS LETTER №1～30・32～42、大阪大学公開シンポジウム 21世紀の政策のあり方を考えよう！報告書、大阪大学公開シンポジウム 21世紀の政策のあり方を考えよう！(チラシ)、グローバル化時代のパブリック・ポリシー、個人金融サービス寄付講座 シンポジウム「金融大変革と個人投資家」、個人金融サービス寄付講座 国際研究集会「資産運用の多様化と個人金融サービス－国際比較を通じて－」、個人金融サービス寄付講座 シンポジウム「資産運用の多様化と個人金融サービス」(報告書)(チラシ)、Asset Management Diversification and the Personal Finance Service Industry (英文)、平成11年度個人金融サービス寄付講座研究集会・シンポジウム

大阪大学大学院情報科学研究科

大阪大学大学院情報科学研究科案内、大阪大学大学院情報科学研究科案内(英語版)、大阪大学大学院情報科学研究科年報 第1～2号、自己評価・外部評価報告書

大阪大学大学院生命機能研究科

平成19年度学生便覧

大阪大学産業科学研究所

MEMOIRS OF THE Institute of Scientific and Industrial Research 1998～2007、平成10年度～平成18年度 年次報告書、要覧 1998～2007、外部評価報告書 平成16年3月・平成19年3月、60周年記念産研この十年の歩み、産研ニュースレター 第10・16・18・24～31号、第58～59・61～62回学術講演会プログラム、大阪大学産業科学研究所 2004・2005・2007(パンフレット)、大阪大学産業科学研究所 2007(英語版・パンフレット)、大阪大学産業科学研究所・産業科学ナノテクノロジーセンター(パンフレット)

大阪大学社会経済研究所

平成15～18年度版大阪大学社会経済研究所要覧、大阪大学社会経済研究所活動報告 1996・1999 2001・2003 ～ 2006、Osaka University Forum 2007 in Gronigen Program&Abstract Book、大阪大学社会経済研究所附属行動経済学研究センター開設記念シンポジウム「人々の心理と経済行動」、大阪大学社会経済研究所第2～4回行動経済学研究センターシンポジウム、大阪大学21世紀COEセミナー Nobel Lecture(ポスター)、大阪大学社会経済研究所第2回外部評価委員会報告書

大阪大学接合科学研究所

阪大接合研ニュースレター№19～21、大阪大学接合科学研究所スマートプロセス研究センターニュースレター№9～10、大阪大学接合科学研究所スマートプロセス研究センター 要覧 2006～2007、大阪大学接合科学研究所要覧 2006～2007、大阪大学接合科学研究所外部評価報告書、大阪大学接合科学研究所中間評価報告書、2006年度大阪大学接合科学研究所年次報告

大阪大学環境安全研究管理センター

大阪大学環境安全研究管理センター(パンフレット)、Research Center for Environmental Preservation Osaka University(パンフレット)、環境安全ニュース №1～32、保全科学 №1～13

大阪大学総合学術博物館

大阪大学総合学術博物館年報 2003～2006、大阪大学総合学術博物館要覧 2005～2006

大阪大学大学教育実践センター

魅力ある授業のために－共通教育賞受賞者による教育実践集－、大学教育実践センターニューズレター№1～15、共通教育だより №26～32、創造と実践№6、大阪大学第1～2回全学FDセミナー、大阪大学第一回共通教育ファーラム2004、大阪大学第二回大学教育セミナー2005、University for the Society、第2回京都大学・大阪大学合同イベント「夢さがしている君へ－学生の夢をつむぐ大学」、科学研究費補助金基盤研究H18年度中間報告書「大学における学生の質に関する国際比較研究」、大阪大学全学共通教育学生による授業評価アンケート 平成16年度1～2学期、大阪大学大学教育実践センター(パンフレット)、平成18～19年度全学共通教育科目授業概要Ⅰ(シラバスⅠ)授業概要Ⅱ(シラバスⅡ)、平成18～19年度 全学共通教育科目履修の手引き、平成18～19年度 授業時間割表1・2年次

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

平成18～19年度コミュニケーションデザイン科目(履修ガイドブック・シラバス)、コミュニケーションデザイン・センター(パンフレット)、カフェバトル(CSDCオープニングイベントリーフレット)、中之島コミュニケーションカフェ「駅ができる！」(イベントプログラム)、知デリ(知術研究プロジェクトイベントポスター)、オレンジカフェ平成19年(前期プログラム)、

大阪大学金融・保険教育研究センター

平成18～19年度10月入学大阪大学金融・保険教育研

究センター社会人再教育プログラム「科目等履修生」募集要項、平成18年度「金融・保険教育研究センター」カリキュラム履修ガイド、大阪大学金融・保険教育研究センター平成18年度活動報告書、大阪大学金融・保険教育研究センター社会人再教育プログラム「科目等履修生」平成19年度第1学期（4～9月）入学「履修継続申請要項」、平成19年度金融・保険教育研究センター教育プログラム、金融・保険教育研究センター2007（パンフレット）

大阪大学サイバーメディアセンター

計算機利用ニュース　Vol.1～3、サイバーメディアセンター年報　2000～2006年度、サイバーメディア・フォーラム　No.1～8、阪大ニューズレター　No.37

旧制浪速高等学校同窓会

浪高同窓会報　第47号

片山淑子

片山佐一とともに

谷本宗生（東京大学史史料室）

「金沢市史」通史編3　抜刷　第一編　近現代　第五章戦後改革と社会の変化」、「近代日本研究」第二十三巻抜刷　慶応義塾福沢研究センター「東京大学史史料室と中野実の活動について」、東京大学史紀要　第24号抜刷「資料室作業報告　大学の自己点検評価の歴史的調査および研究」

牧野正直（国立療養所邑久光明園長）

日本らい学会櫻根賞便覧　第三編、大阪皮膚病研究会のあゆみ　1929～2003

村田義人（旧制大阪高等学校同窓会長）

中島栄次郎著作選　野田又夫・改題、8月15日の青春　大阪高等学校生（旧制）の手記、

新風書房

大阪春秋　No.117・129

大阪大学文書館(仮称)設置検討ワーキング名簿

2008年3月1日現在

委員

◎阿部武司（経済学研究科教授）
竹中　亨（文学研究科教授）
中尾敏充（法学研究科教授、評価・広報室員）
江口太郎（総合学術博物館長）
米田悦啓（生命機能研究科教授）
阿部浩和（サイバーメディアセンター教授）
玉井　暲（文学研究科教授、教育・情報室員）
細谷　裕（理学研究科教授、湯川記念室運営委員会委員長）
滝澤温彦（理学研究科教授、湯川記念室運営委員会委員、総合計画室員）
高杉英一（理事・副学長、評価・広報室長）

オブザーバー

菅　真城（文書館設置準備室講師）
西田正吾（理事・副学長、総合計画室長）
大西　愛（大阪大学出版会）

◎は主査

業務日誌(抄)　(2007年7月～2008年2月)

2007年

・7月5日　菅、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会第90回例会（大阪大学中之島センター）に出席。

・7月11日　学外から旧職員の在職期間について照会。

・7月17日　工学研究科のギャラリー展示用に写真を貸し出し。

・7月19～21日　阿部室長・菅、大分・福岡出張。全国大学史資料協議会西日本部会第2回研究会（立命館アジア太平洋大学・西南学院大学・九州国立博物館）に出席。

・7月30～31日　菅、東京・横浜出張。科学研究費補助金研究会「大学所蔵の歴史的公文書の評価・選別についての基礎的研究」（研究代表者・西山伸京都大学大学文書館准教授）2007年度第2回研究会（東京大学山上会館・神奈川県立公文書館）に出席し、「大学アーカイブズにおける『教育研究』の取り扱い－評価選別論のための前提－」を口頭発表。

・8月26日　菅、京都出張。科学研究費補助金「京都府行政文書を中心とした近代行政文書の史料学的研究」シンポジウム　未来への遺産－重要文化財「京都府行政文書」の保存と活用－（キャンパスプラザ京都）に出席。

・8月28日　菅、講演会「米国国立公文書館の情報公開への取り組み」（アメリカ総領事館、講師：マイケル・J・カーツ米国国立公文書館記録サービス局長）に出席。

・9月7日　学内刊行物の寄贈依頼文を各部局長・事務局各課長に送付。

・9月7～8日　菅、北海道出張。科学研究費補助金「大学所蔵の歴史的公文書の評価・選別についての基礎的研究」（研究代表者・西山伸京都大学大学文書館准教授）2007年度第3回研究会（小樽商科大学・北海道大学）に出席。

・9月11日　梅溪昇名誉教授（文学部）のビデオ撮影（大阪大学学士会館連絡事務所）。

・9月19日　梅溪昇名誉教授（文学部）のビデオ撮影（梅溪名誉教授宅）。

・9月30日　『大阪大学文書館設置準備室だより』第1号を刊行。

・10月10日　菅、東京出張。国立国会図書館で資料調査。

・10月11～13日　阿部室長・菅、東京出張。全国大学史資料協議会2007年度総会ならびに全国研究会（成蹊学園・川崎市公文書館）に出席。

・10月27～28日　菅、東広島出張。2007年度広島史学研究会大会（広島大学）に出席。日本史部会において、「国立大学に建学の精神はあるのか？－広島大学、大阪大学の場合－」を口頭発表。

・10月29日　湯川記念室より中之島時代の理学部玄関写真について照会。

・11月2日　菅、総合学術博物館において大島真理夫教授ら大阪市立大学大学史資料室関係者と会談。

・11月5日　菅、国立療養所邑久光明園（岡山県瀬戸内市）を訪問し、牧野正直園長（元微研所員）所蔵の（財）大阪皮膚病研究会（微生物病研究所癩部門の支援財団）資料の現状を確認。

・11月19～22日　菅、水戸出張。第33回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国（茨城）大会及び研修会（茨城県立県民文化センター・茨城県立歴史館）に出席。

・11月26日　菅、授業「大阪大学の歴史」について、高杉副学長、江口総合学術博物館長と打ち合わせ。

・12月3日　総務部企画推進課より大阪帝国大学創設時の入学者数について照会。

・12月5日　菅、法人文書管理規程について総務部評価・広報課と打ち合わせ。

・12月11日　村田義人氏（大阪高等学校同窓会会長）のビデオ撮影（湯川記念室）。

・12月12日　菅、全国大学史資料協議会西日本部会2007年度第4回研究会（大阪樟蔭女子大学田辺聖子文学館・司馬遼太郎記念館）に出席。

・12月20日　第14回文書館（仮称）設置検討ワーキングを開催。

2008年

・1月1日　当室所蔵の大福寺時代の大阪仮病院の写真が『大阪春秋』No. 129に掲載される。

・1月8日　阿部室長・菅、竹村サイバーメディアセンター長と会談。

・1月16日　大久保昌一名誉教授（法学部）のビデオ撮影（大久保名誉教授宅）。

・1月18日　東京大学史史料室の谷本宗生氏・瀬川大氏来室。高木修二関係文書を閲覧。

・1月28～31日　菅、東京出張。国立公文書館平成19年度実務担当者研究会議に出席。

・2月12日　阿部室長・菅・田村・辻、附属図書館箕面分館を視察。

・2月19日　菅、名古屋出張。名古屋大学大学文書資料室を視察し、聞き取り調査。

・2月22日　菅、京都出張。全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会第94回例会（京大会館）に出席。

大阪大学文書館設置準備室設置要項

（設置）

第１　大阪大学に、大阪大学の歴史に関する文書（法人文書を含む。以下同じ。）の収集、整理、保存及び公開を目的とする文書館の設置準備を行うため、大阪大学文書館設置準備室（以下「準備室」という。）を置く。

（業務）

第２　準備室は、次の各号に掲げる業務を行う。

一　大阪大学の歴史に関する文書の収集、整理及び保存に関すること。

二　大阪大学の歴史に関する文書の調査に関すること。

三　その他文書館の設置準備に必要な事項

（室長）

第３　準備室に、室長を置く。

２　室長は、本学の教員のうちから総長が指名する者をもって充てる。

３　室長は、準備室の業務を統括する。

４　室長の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

（専任教員等）

第４　準備室に専任教員として講師1 人を置く。

２　専任教員は、室長の命に従い、準備室の業務に従事する。

３　第1 項に定めるもののほか、準備室に、必要な職員を置くことができる。

（事務）

第５　準備室に関する事務は、事務局関係部課及び関係部局事務部の協力を得て、総務部企画推進課で行う。

（雑則）

第６　この要項に定めるもののほか、準備室に関し必要な事項は、総長が別に定める。

附　則

この要項は、平成18 年7 月1 日から施行する。

資料保存セミナーのご案内

大阪大学文書館設置準備室では、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）資料保存委員会と共催で、資料保存セミナーを開催します。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

なお、セミナーのテーマ・報告者等の詳細につきましては、決定次第、当室のウェブサイトにてご案内いたします。

日時：2008年6月12日（木）13時～
場所：大阪大学附属図書館本館6F図書館ホール
　　豊中市待兼山町1-4
報告：菅　真城（大阪大学文書館設置準備室講師）
　　「大学の資料を保存する」（仮題）
　　全史料協関係者1名
セミナー終了後、学内で懇親会を開催

大阪大学文書館設置準備室員名簿

室　長	阿部武司 （経済学研究科教授）
講　師	菅　真城
事務補佐員	田村　綾
	辻　義浩

大阪大学文書館設置準備室だより　第2号

発行日　2008年3月31日
編集発行　大阪大学文書館設置準備室
〒560-0043
大阪府豊中市待兼山町１－３２
大阪大学サイバーメディアセンター気付
Tel.（06）6850-6269
Fax.（06）6850-6274
E-mail kan@hpc.cmc.osaka-u.ac.jp
http://www.osaka-u.ac.jp/jp/facilities/archives/top.html